

日本社会福祉系学会連合からの報告

日本社会福祉系学会連合
事務局長 宇都宮みのり(愛知県立大学)

年度末を迎え、会員の皆様におかれましては、それぞれの研究・教育・実践の現場において、多忙な日々をお過ごしのことと存じます。平素より、日本社会福祉系学会連合の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年度の学会連合の運営につきましては、「日本社会福祉系学会連合規程」に基づき、9名の運営委員により、年2回の運営委員会を開催し、事業の企画・実施ならびに運営に関する協議を重ねてまいりました。また2025年5月25日には、立教大学において定時総会を開催し、加盟学会の皆様にご参集いただきました。おかげさまで、本年度、以下の諸事業を円滑に遂行することができました。

まず、会員の活動に関する情報共有を目的として、学会連合ホームページの充実を図り、加盟学会の大会等に関する情報の定期的な掲載や、日本学術会議をはじめとする関係機関の動向についての周知を行ってきました。あわせて、連合の活動を広く共有するため、電子版ニュースレターを年2回発行し、会員各位への情報提供に努めております。また、2013年より継続している「災害福祉アーカイブ」につきましては、本年度も震災関連の研究成果や報告書の収集・掲載を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症に関する研究資料についても情報の蓄積を図りました。これらは、分野や世代を超えた研究・実践の基盤を支える取り組みの一つとして、引き続き充実を図っていきたいと考えております。加盟学会の活動支援としては、外部専門家の招聘等に要する費用の一部を補助する制度を本年度も継続して実施し、学会活動の活性化に寄与することを目指してまいりました。さらに、日本学術会議が主催するシンポジウム等への共催を通じて、社会福祉学に関わる学術的議論の促進にも協力してきております。

社会福祉に関わる研究と実践が、複雑化・多様化する社会課題に向き合い続けるためには、分野の違いを踏まえた継続的な対話と協働が不可欠です。社会福祉系学会の連合体である本組織が、そのための安定した基盤として今後も着実に機能し、加盟学会ならびに会員各位の活動を支えていきますよう、関係各位の皆様には、引き続きご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年5月に開催される連合の総会をもちまして、今期の運営委員会は2年間の任期を満了することとなります。これまで学会連合の運営に多大なご尽力を賜りました運営委員の諸先生方に対し、この場をお借りしてあらためて厚く御礼申し上げます。